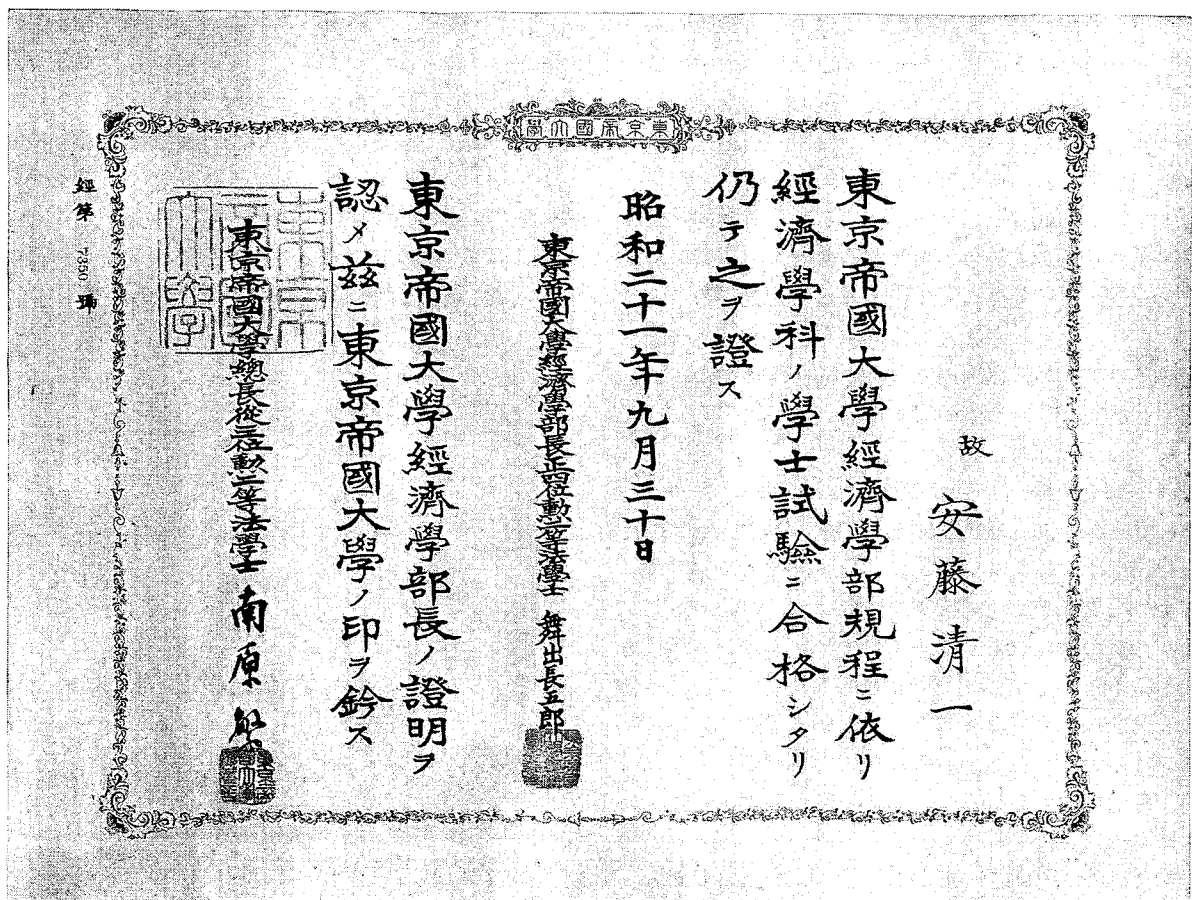


東京大学史史料室ニュース

第26号 2001・3・31

目次

学徒動員・学徒出陣に関する海外調査の概略2
 オクスフォード・ケンブリッジの戦没者の記念碑3
 受贈図書一覧7
 史料室日誌抄録8



故・安藤清一氏の卒業証書

学徒動員・学徒出陣に関する海外調査の概略

中野 実

1993年3月に上梓された大学史史料室編『東京大学における学徒出陣・学徒動員』には残された課題が大要以下のように記されている。

課題の一つは、近代日本における大学と戦争あるいは学生・教職員と戦争という関係性の問題である。明治期以降、この問題は常に伏在しており、その課題性は、単に制度や組織に限定されるのではなく、教育研究の中身を再検討することに連なる。日中戦争開始後、大学と国家との関係性は以前よりも増して密接となった。大学が直接的に国家と運命を共にするという経過をたどった。それは近代日本における大学と戦争との関係における一つの典型を示していた。この歴史的経験について、正確かつ包括的に明らかにすることは大学の責務であり、初等、中等教育に比して大学などの高等教育機関に於ける戦争とのかかわりの諸相の解明は遅れている。

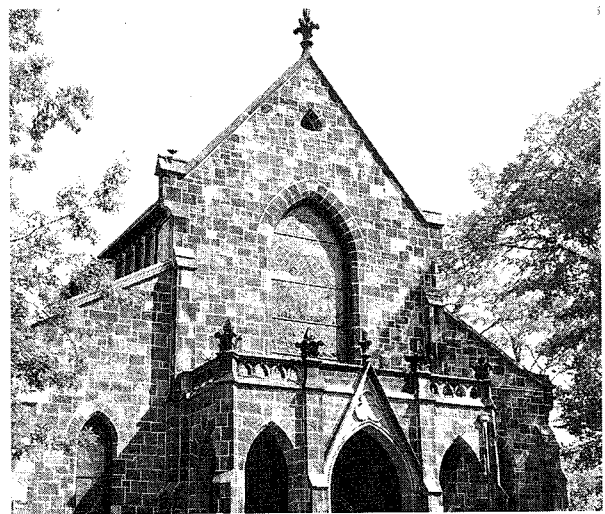
もう一つの課題は、諸外国における大学と戦争との関係性の解明と、その日本との比較である。大学と戦争とのかかわりは、諸外国では、伝統的であるいは新興大学を問わず、決して新しいものではない。学生、教職員が兵士あるいは軍事科学などの研究要員としてどのように軍事動員されたのか、あるいはそれを免れた事例があるのか、大学種別との関わりをどうか、といった諸側面を、世界の大学史のなかで把握することが求められる。それらを通じて、昭和戦前期日本における学徒動員、学徒出陣の問題性と固有性を明らかにすることができる。

今回の調査概略は、後者の課題にかかわっていた。ところで、慶應義塾大学白井厚氏（現、帝京平成大学）の還暦記念論文集として刊行された『大学とアジア太平洋戦争一戦争史研究と体験の歴史化』（1996年、日本評論社）には、ロシア、ドイツ、アメリカの大学における戦争とのかかわりが取り上げられている。諸外国の事例をはじめ、まとまった形で本書から知ることができるようになった。それぞれの事例が独自の文化的、政治的背景を持っていることも推測できた。諸外国における大学と戦争との関係について—とくに戦没慰霊について—は、しばしば耳にすることはあるが、一冊の刊行物としてまとめられたのは（事例は少ないが）、この白井本以外に寡聞にして知らない。

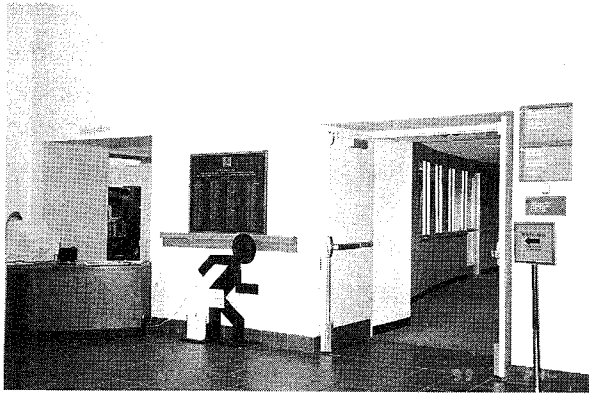
1999年と2000年との2回にわたり、韓国、アメリカ合衆国、イギリスの3国について、とくに戦没学生の慰霊（記念碑、銘板）についての現地調査の機会を得たので、その概略をここに記しておく。

韓国；韓国の調査には前史がある。1998年に『学徒出陣一戦争と青春』（吉川弘文館）を出版した蜷川壽恵氏（東大十八史会）から韓国学徒兵の会の鄭琪永氏を紹介していただき、史料室にてすでに「東京帝大出身者学徒兵名簿」をめくり情報の交換を行っていた。99年に韓国に行き、前年の1998年に建立した「朝鮮人学徒兵」の記念碑（鐘路区恵化洞ロータリーの東星中学正門内）を前に聞き取りをさせていただいた。韓国の調査はこれが中心であった。このほかソウル大学アーカイヴズを訪問して、戦争とのかかわりについて聞き取りを行った。

アメリカ合衆国：西海岸を中心にしてハーバード、MIT、ラットガース、プリンストンの4つの大学を足早に駆けめぐった。とくに印象に残っているのは、ラットガース大学である。同大学の記念碑設置の場所は3つに分かれていた。第1は南北戦争と第1次世界大戦の戦没者は大学チャペルの内壁にある。第2の第2次世界大戦分は、同大学のアレクザンダー図書館の入り口正面にある。第3のベトナム戦争時代分は、キャンパスの一隅に小さな記念碑としてある。とくに第3のそれは、静かに佇んでいた。人類史上最大の破壊規模の戦争であったベトナム戦争。その慰霊は単純ではなくなっていた。それ以前に巡っていたハーバード、MITにおける記念碑の場所、規模とのあまりの違いには、驚かせられた。

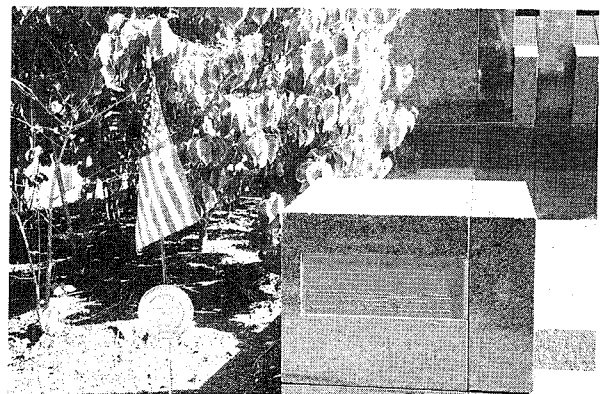


ラットガース大学・チャペル



同大学・アレクサンダー図書館

イギリス：スコットランドのエジンバラ、グラスゴーの両大学、イングランドではケンブリッジ、オックスフォード、ロンドン大学を訪問した。大学アーカイヴズに連絡をつけ、現地調査するという方法はこれまでと同様であったが、スコットランドでの調査は留学中であった別役厚子氏のご尽力にて格段に深化した。戦没者慰霊に関する発議文書、評議会の記録、関連団体への照会文、碑の制作者の文書、遺族からの応答などが残されていることが分かった。また、それらの文書が一つの分類に取められていなく、いろいろなところに分散していたことも実感した。このことにより、当然のことであるが、調査には多くの手間と時間が



同大学・キャンパス

必要であることが明らかになった。さらにエジンバラ大学の大学院学生ニール氏を紹介していただき、彼の論文"Edinburgh University and World War II"を頂戴し、その成果について教えていただいた。ロンドン大学のジョン・プリン氏には貴重な文献を教えていただいた。記念碑についてはエジンバラはオールドカレッジの壁面、グラスゴーはチャペル内、ロンドン大学はユニバーシティーカレッジのメインビルディングの壁面とsenet house and libraryの一階ロビーにあった。オックスブリッジは各カレッジにある。それらのことについては、小川氏の論考を参考にして下さい。

オックスフォード・ケンブリッジの戦没者の記念碑

小川 智瑞恵

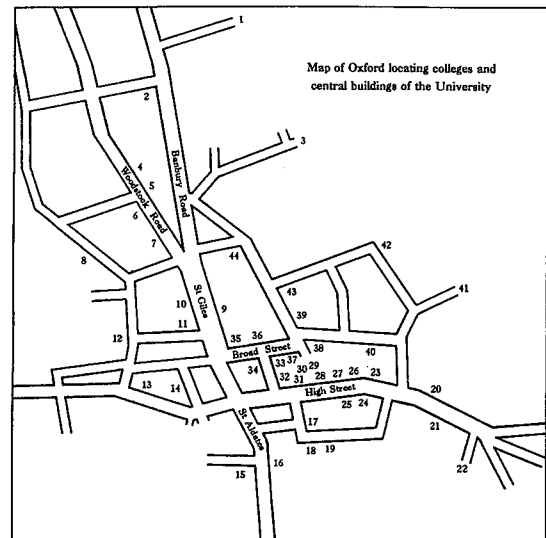
大学史史料室では、学徒動員・学徒出陣の継続調査として、英国のオックスフォード及びケンブリッジの各カレッジに、第二次世界大戦による戦争及び戦没者に関する記念碑と文献についての照会をおこなった。質問内容は、記念碑の有無、その形体、所在地、および記念碑をつくった時期と制作依頼者に関する事項である。文献については、記念碑について書かれた資料、戦時中における大学の状況や戦死者のための記念礼拝に関する記録、カレッジと戦争の関係についての単著の有無を調べた。

この照会の結果をもとに、オックスフォードの場合は紹介された文献から明らかになった碑文の内容も含め、オックスフォードとケンブリッジの各カレッジにおける戦没者の記念碑について以下述べていきたい。

オックスフォード

1 記念碑の有無・形体・所在地

オックスフォードでは、女子カレッジおよび1945年以降創立されたものを除くと、27のカレッジが対象となる（各カレッジの位置については図1を参照のこと）。



- | | | | |
|----------------------|-------------------|------------------------|-----------------------|
| 1 Wolfson | 12 Worcester | 23 St Edmund Hall | 34 Jesus |
| 2 St Hugh's | 13 Nuffield | 24 Examination Schools | 35 Balliol |
| 3 Lady Margaret Hall | 14 St Peter's | 25 University College | 36 Trinity |
| 4 St Antony's | 15 Pembroke | 26 Queen's | 37 Sheldonian Theatre |
| 5 St Anne's | 16 Christ Church | 27 All Souls | 38 Hertford |
| 6 Green | 17 Oriel | 28 St Mary the Virgin | 39 Wadham |
| 7 Somerville | 18 Corpus Christi | 29 Radcliffe Camera | 40 New College |
| 8 Clarendon Building | 19 Merton | 30 Bodleian Library | 41 St Catherine's |
| 9 St John's | 20 Magdalen | 31 Brasenose | 42 Linacre |
| 10 St Cross | 21 Botanic Garden | 32 Lincoln | 43 Rhodes House |
| 11 Ashmolean Museum | 22 St Hilda's | 33 Exeter | 44 Keble |

図1 Oxford 各カレッジの位置

このうちの15校が木製や石、ブロンズのタブレットで (Balliol, Brasenose, Christ Church, Exeter, Lincoln, Merton, New College, Oriol [図2], The Queen's College, Rhode House, St Hugh's, St John's, Trinity, Wadham, Worcester)、他は石や大理石の碑 (Hertford, University College)、柱状の碑 (Mansfield)、木製の銘板 (Jesus, St Edmund Hall)、石や木製の記念額 (Keble, St Peter's)、石版 (All Souls,)、slate (St Catherine's College)、パネル (Corpus Christi) の形で追悼している。第一次世界大戦のものと対になる形で作られている場合が多い。Magdalen College は『名誉の戦死者名簿』だけがあり記念碑建造の話はあるものの現段階では実現に至っていない。

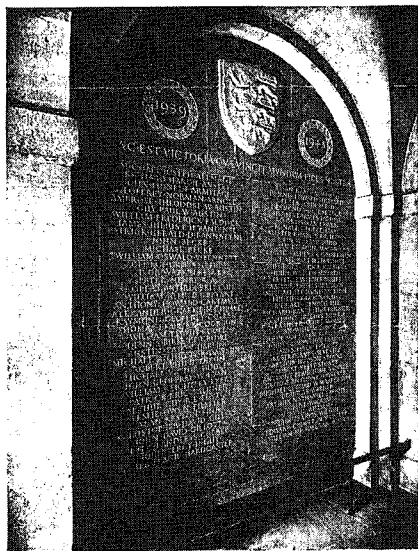


図2 Oriol Collegeの記念碑

これらが設置されている場所は次の通りである。最も多いのがチャペルとその近くで12校 (All Souls, Balliol [図3], Brasenose, Corpus Christi, Hertford, Keble, Magdalen, Mansfield, St Catherine's College, St Edmund Hall, St Hugh's, University College)、学部学

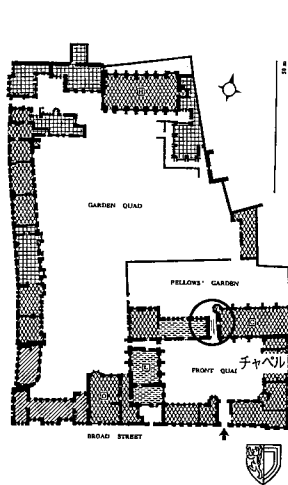


図3 Balliol College
(チャペル前の○印)

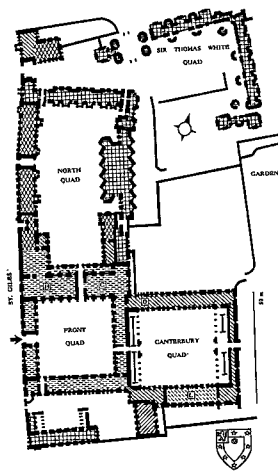


図4 John's College
(CANTERBURY QUAD内のI印)

生社交室2校 (Jesus, Lincoln)、回廊やアーチ道 (Christ Church, Merton, New College, Oriol, The Queen's College, St John's [図4], Wadham, Worcester)、大食堂への階段 (St Peter's)、巡礼の塔の基部 (Exeter)、図書館の突き当たり (Trinity) などである。

2 時期・制作依頼者

制作された時期については、照会により得られた回答によると、1945年が1校 (Hertford)、1946~1948年が4校 (Corpus Christi, The Queen's College, Merton College, Exeter)、1949年が2校 (St Edmund Hall, Trinity) であり、戦後5年ほどの間に建てられている。

制作依頼者については、照会から得られた11カレッジの回答によると、そのうち、大学当局によると明確に回答しているのは3校 (Mansfield, The Queen's College, St John's College)、戦争記念の基金によって支払われたカレッジが2校 (St Edmund Hall, Trinity)、同窓生が資金集めをして記念碑が作製されたカレッジが1校 (Exeter)、制作依頼者不詳が3校 (Corpus Christi, Merton, New College)、また他の2校からは建築やデザイン、彫刻の依頼先についての回答がある。(Christ Church, Jesus)。

このなかで、Trinity Collegeでは、カレッジが戦争記念基金を設立し、大学関係者や戦没者の家族から14,500ポンドを得て、一部を奨学金とし、一部をラテン語の碑文をくりぬいたデザインの門を建てた。1947年4月19日には、戦没者の家族を招き全学をあげて記念礼拝をおこなっている。

3 碑文の内容

オクスフォードの各カレッジと教育機関における戦死者の記念碑について一冊にまとめたPatricia Utechin著の*SONS of THIS PLACE* (Oxford/1998) によると、これらの記念碑には主として追悼文、戦死者の名前 (学生、tutors、College servantsなど)、また連隊名や等級、兵役期間などが記されている場合があることがわかる。追悼文はラテン語で銘刻されているものがほとんどである。以下、*SONS of THIS PLACE*からいくつかの銘文を紹介してみよう。

銘文は、まず記念碑をつくった意図、第二に戦没者への言葉、第三に戦没者を記憶するよとの呼びかけ、第四に祈りと、おおまかに分けられる。

第一に、記念碑をつくった意図を記した例として、All Souls Collegeでは、'In memoriam Ricardi Thomae Edwini Latham et Henrici Whitcliffe Davies, huius collegii sociorum qui florenti inventute incohata spe hic

plagae euae sub undis mense Februario anno MCMXLII ille borealis inter nubila mense Augusto anno MCMXLIII pro patria militantes occubuerunt consocii superstites ne maioris debiti quam quod solve posset saltem testimonium hoc marmor faciundum curaverunt.'と記す。

Balliol collegeでは、'To the Glory of God and in memory of the Balliol men who gave their lives in the war 1939-1945'という碑文の下、入学年（1884-1943）と大学での身分を記した119人の名前と、少し間があって5人のドイツ人の名を刻む。

Brasenose Collegeは、'Dei gloriae et memoriae alumnorum qui pro libertate vindicanda mortem obierunt, hunc titulum pietatis caussa ponendum curavit. Domus sospes'という銘文と124人の名を記念した。

次に、戦没者への言葉にどのようなものがあるかみてみよう。St Peter's Collegeは22人の名前と'Per fidem vicerunt regna'と記した。

Worcester Collegeは92人の戦没者を'Brave men and worthy patriots, true to God and famous to all ages'と呼ぶ。

第三に、戦没者を記憶するよう呼びかける銘文として、Mansfield Collegeは5人の名前とともに次のように記す。

'Remember...who in divers ways but in one faith and hope gave their lives in the great war 1939-1945.

第四に戦没者のための祈りを刻むカレッジもある。St Edmund Hallは、'Obsecramus Te, Domine JESU, ut alumnos Aulae nostrae bello peremptos in Aulam caelestam misericors ducas'と記し、65人の戦没者の名を記す。

St Hugh'sでは、8人の死を記念したブロンズのタブレットに'Lux perpetua lucent eis'と刻む。Corpus Christiでは、49人の名と'Semper laudandus est Dominus et in viventibus et in defunctis'という言葉が記される。

4 記念碑について書かれた資料

Balliol Exeter, The Queen's College, St Edmund Hall, St John'sが大学の雑誌や年報に、Mansfieldが大学史に記念碑に関する記載があるという。

5 戦時中における大学の状況や戦死者のための記念礼拝に関する記録

照会の結果、回答率は低かった。Magdalen College

が年報に回想録を掲載し、The Queen's Collegeは戦闘でなくなった人の伝記記録を刊行している。

6 カレッジと戦争の関係についての単著

「なし」あるいは「知らない」との回答が最も多い。Balliol Collegeでは、J.H Jonesによる*Balliol College: A History*のなかで第二次世界大戦についてエピソードで記述し、Mansfield Collegeでは大学史の序論で触れている。複数のカレッジが先に引用した*SONS of THIS PLACE*を挙げる。Merton Collegeでは*MERTON COLLEGE WAR RECORD 1939-1946* (OXFORD/発行年不明) および*MERTON COLLEGE 1939-1945* (OXFORD/1947) という小冊子を発行した。

ケンブリッジ

ケンブリッジでは対象となるカレッジのうち14から回答が寄せられた。以下オクスフォードの場合と同様に回答結果を見ていきたい。

1 記念碑の有無・形態・所在地

13のカレッジがあると回答している。その形態は次の通りである。

記念碑および石碑が7 (Christ's College, Corpus Christi, Gonville and Caius [図5], King's College, Magdalen, Sidney Sussex, Trinity College)、パネル (Pembroke [図6], St John's)、石版 (Jesus Colege)、タブレット (Selwyn)、チャペルの至聖所の石の床 (Selwyn)、戦争直後個人によって提供された14の聖職者席および14の木製の聖職者席 (Selwyn)、二人の天使に支えられてキリストが昇天するブロンズの彫像 (Selwyn College)、学部生図書館 (St Catharine's College)、追悼集および銀の聖餐台の十字架、燭台 (Emanuel) である。

記念碑の所在地については、チャペルかその近くにある場合がほとんどである (Christ's College, Corpus Christi, Emmanuel, Gonville and Caius, Magdalene, Selwyn)。King's Collegeではチャペルの記念館 (MEMORIAL)、あるいはALL SOULSと呼ばれる附属礼拝堂の中にある。カレッジ・チャペルの回廊内の外壁 (Jesus)、チャペルに通じる屋根つきの歩廊 (Pembroke)、に設置しているカレッジもある。チャペル以外では、Selwyn Collegeが戦争記念館 (運動場にあり) を1957年に建立した。

記念碑はJesus Collegeが第一次世界大戦戦没者の記念碑と調和してつくったと述べているように、第一次世界大戦のものと対に制作されている場合が多い。

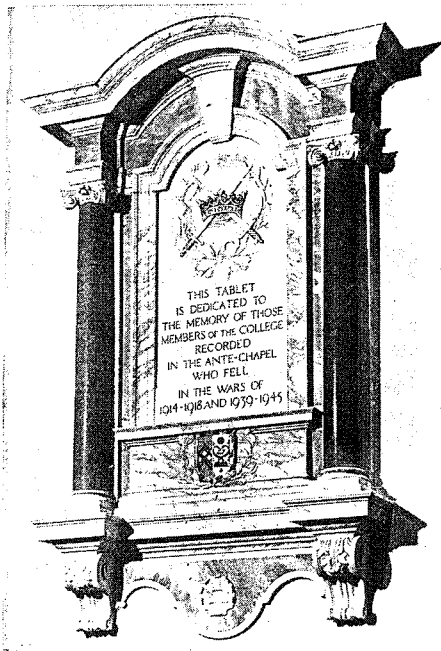
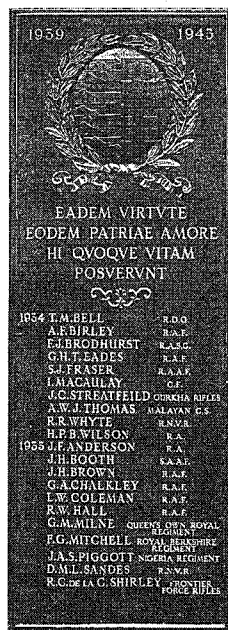


図5 Gonville and Caius Collegeの記念碑



CENTRAL PANEL OF THE WAR MEMORIAL

図6 Pembroke Collegeの記念碑

2 記念碑制作の時期・制作依頼者

回答があったもので早い時期から、1948～49年に Magdalen College、Pembroke College、1951年に Emmanuel College、1954年には Gonville and Caius College および St John's College が記念碑を制作した。他のカレッジについては回答がなかった。

Pembrokeでは、中央のパネルに月桂樹の花冠に囲まれた円形の盾とその上に大学の紋章を付したパネルに戦没者名を記し、1948年7月10日に学長とフェロー、戦没者の多くの関係者が臨席して礼拝がおこなわれた。パネルは学長 (Sir Montagu Butler) によって除幕

され、第一次世界大戦中に同カレッジのディーンで現在はフェローである Ely 主教 (Bishop)、H.E. Wynn 師 (The Right Reverend) によって司式がなされた。

製作依頼者に関しては、大学が依頼者または発起人と明記しているのは Christ's College と Selwyn College の2校である。Selwyn College は、第二次世界大戦後、大学が戦死者の記念碑のために資金を募って碑を作製した。他の7カレッジは、実際に製作にあたった会社や個人名は挙げている (Emmanuel, Gonville and Caius, Magdalene, Pembroke, St John's, Sidney Sussex, Trinity College)。3カレッジは不詳である (Corpus Christi, Jeses, King's)。

3 記念碑について書かれた資料

照会結果によると、資料に関してほとんどのカレッジがあると回答している。例えば、Corpus Christi College は、戦没者名を "The Corpus Association Newsletters" 23～25 (1940～1946) に掲載し、特に25号には所属連隊を併記した全優等生名簿を印刷した。Gonville and Caius College では、戦没者のためにささげられた記念碑と礼拝について、大学の雑誌 "A Caian Volume LIV (1945～45)" の付録に詳しい記述がある。また、Magdalen College は、名誉の戦死を遂げた大学関係者の石碑除幕式 (1949年11月) について的小冊子を発行した。Selwyn College には、会計や事業の計画書を含んだ戦争記念基金に関するファイル、至聖所の床と記念碑、聖職者席の天蓋、ブロンズ像献呈のための事業計画書が残されている。

4 戦時中における大学の状況や戦死者のための記念礼拝に関する記録

8カレッジがあると回答した。King's College ではカレッジアーカイヴズに原資料が保管されている。Sydney Sussex College では、記念碑に記念された人々のリストおよび戦死者略歴を College Annual に掲載した。

5 カレッジと戦争の関係についての単著

単著についてはありとの回答は得られなかった。Mansfield College では大学史の序論に言及があり、St John's College では、大学の雑誌 *THE EAGLE* 62巻で数ページ「戦時中の大学」について掲載する程度である。複数のカレッジがオクスフォード同様 *SONS of THIS PLACE* を挙げている。

以上、照会の結果を中心にオクスフォード、ケンブリッジの戦没者の記念碑及び文献についてみてきたと

ころ、次の点が指摘できる。第一に、記念碑はチャペルや回廊、学生社交室など、学生がふだん行き交うところに設置されていることである。第二に、大学や同窓生が哀悼の意をもって積極的に戦没者の名前を銘刻し記憶しようとする姿勢である。第三に、1998年に *SONS of THIS PLACE* が発行され、戦没者の記念への関心がみられる。これらに共通して、戦死者の記憶 (commemoration) という軸が看取できる。

注

図 1, 図 3, 図 4 Milles Jebb, *The Colleges of Oxford* (London/1992) のそれぞれ p14, p36, p200 より転載。

図 2 *The Oriel Record* (1950) より。

図 5 *The Caian Voiume LIV* (1954-5) より。

図 6 *Pembroke College Cambridge Society Annual Gazette*, No.22 (1948.12) より。

(東京大学史料室教務補佐員)

受贈図書一覧 (平成12年12月～平成13年3月)

三重大学五十年史 (部局史編／通史編・資料編)

三重大学開学50周年記念事業後援会 平成11年 9月
同志社女子大学125年

同志社女子大学 平成12年11月

新編 検証 陸軍学徒兵の資料
学徒兵懇話会 平成12年12月

清泉女子大学創立50周年記念誌
清泉女子大学 平成12年11月

高知県立歴史民俗資料館研究紀要第9号
(財)高知県文化財団 平成12年 3月

興農学園 みかん村とデンマーク教育
沼津市明治史料館 平成12年12月

常設展示図録
渋沢史料館 平成12年11月

神戸大学教育学部五十年史
神戸大学教育学部五十年史編集委員会 平成12年11月

図録 神戸大学教育学部五十年史
神戸大学教育学部五十年史編集委員会 平成12年11月

戦後教育改革構想 I期 解説・解題
高野義夫 平成12年11月

復刻 薩長土肥 慶應義塾福澤研究センター 近代日本研究資料8
慶應義塾福澤研究センター 平成13年 1月

常設展 日本の公文書・古文書
国立公文書館

拓殖大学百年史研究 6号
拓殖大学創立百年史編集室 平成13年 1月

渋沢研究 第13号
渋沢史料館 平成12年10月

サティア《あるがまま》第40号
東洋大学井上円了記念学術センター 平成12年10月

サティア《あるがまま》第41号
東洋大学井上円了記念学術センター 平成13年 1月

所蔵文書目録第十三集 諸家文書目録 5
千葉県文書館 平成12年 3月

国際舞台への日独登場 岩倉使節団～日独交流史展
毎日新聞社

千葉県の文書館 第5号

千葉県文書館 平成12年 3月

梅花幼稚園創立70周年記念誌
森脇忠雄 平成13年 1月

沼津市明治史料館史料目録27 東間門田中家・原庄司家文書目録
沼津市明治史料館 平成13年 1月

沼津市明治史料館史料目録28 重須土屋家・重寺日吉家文書目録
沼津市明治史料館 平成13年 1月

森 巨教授 研究業績目録
森 巨総長退官記念会 平成 3年12月

神戸女学院の125年
神戸女学院 平成12年 5月

第一回松本清張研究奨励事業研究報告書
北九州市立松本清張記念館 平成12年8月

森田家旧蔵製糸関係等資料目録 福生市文化財総合調査報告書第30集
福生市教育委員会 平成12年 3月

これまでの大学院・これからの大学院 (名大史ブックレット1)
名古屋大学史料室 平成12年12月

名古屋大学キャンパスの歴史1 (学部編) (名大史ブックレット2)
名古屋大学史料室 平成13年2月

学校法人中村産業学園 学園40年史
学校法人中村産業学園 学園40年史編集委員会 平成13年2月

ウイルスの発見からバリアフリーへ【医療と福祉の100年】
P H P 研究所 平成13年3月

「立命館学園新聞」における立命館関連主要記事内容見出し【暫定第1版 (未定稿)】
立命館百年史編集室 平成10年3月

神戸大学医学部50年史
神戸大学医学部 平成 7年 5月

成瀬記念館 2000 No.16
日本女子大学成瀬記念館 平成12年12月

第一回松本清張研究奨励事業研究報告書
北九州市立松本清張記念館 平成12年 8月

森田浩一とその時代～日記を通して見えてくるもの～
福生市教育委員会 平成13年 1月

香川大学五十年史
香川大学 平成12年12月

史料室日誌抄録（平成12年11月～平成13年3月）

- | | | | |
|---|---|--|-----|
| 11. 30 木 史料室ニュース25号発行 | 3. 14 水 千代田区立四番町歴史民俗資料館へ（所蔵資料展示） | | |
| 12. 4 月 中野室員、京都大学教育学部にて講演『東京大学史からみた京都大学』のため出張 | 3. 18 日 中野室員、鹿児島へ出張（～21日） | | |
| 12. 27 水 ICU学生（11名）による施設訪問及びレクチャー | 3. 22 木 中野室員、京都へ出張（～23日） | | |
| 1. 19 金 神奈川県立歴史博物館へ（所蔵資料展示） | 3. 23 金 教務補佐員、「学徒動員、学徒出陣関係調査」のため京都大学、立命館大学へ出張（～26日） | | |
| 1. 24 水 第51回東京大学史料の保存に関する委員会開催 | | | |
| 2. 13 火 中野室員、「新制東京大学成立関係調査」のため九州大学（大学史資料室）・広島大学（大学教育研究センター）へ出張。 | この間の閲覧者数 | | |
| 2. 23 金 情報公開に関する説明会に出席（於：農学部弥生講堂一条ホール） | 学内 10名 | | |
| 3. 1 木 中野室員、東北大学へ出張（～4日） | 学外 5名 | | |
| 3. 6 火 中野室員、情報公開に関する説明会に出席（於：経済学部第2番教室） | 主な学外閲覧者所属機関 | | |
| 3. 8 木 中野室員、「学徒動員、学徒出陣関係調査」のため京都大学へ出張（～11日） | 東京外国語大学、東北大学、大阪国際大学 | | |
| | 文献撮影・複写許可件数 | | 11件 |
| | 調査（照会）件数 | | 18件 |

追記

前号（25号）にて掲載された文書（「ジョン・ヘンリー・ウィグモア文書」）の著者、岩谷十郎氏の所属が掲載されておりませんでしたので、ここに追記いたします。
「ジョン・ヘンリー・ウィグモア文書」岩谷 十郎（慶應義塾大学 法学部 法律学科）

表紙の説明

「故・安藤清一氏の卒業証書」

安藤清一氏の卒業証書である。名前の上に「故」と書かれている。故人に対して授与された、めずらしい卒業証書である。

安藤氏は、1942（昭和17）年、経済学部に入學。1943年12月に入營・入団した、いわゆる「学徒出陣」対象者である。出陣後の1945年6月に台湾で戦死している。

「学徒出陣」対象者のうち、卒業見込の者には、1943年11月に仮卒業証書が授与された。このうち戦死したり、勤労動員中に死亡した者には、氏名の上に「故」をつけて、一般の学生と同様に卒業証書を授与された。卒業証書の名前の上に「故」とあるのは、このためである。

安藤氏の卒業証書は、敗戦翌年の卒業式で授与された。『帝国大学新聞』（1946年10月2日）は、「戦死した経、安藤清一氏の遺骨が父君にいだかれて参列した姿が涙をそそった」と報じている。

題字 森 巨元総長

東京大学史史料室ニュース 第26号

発行日：2001年3月31日（年2回発行）

編集・発行：東京大学史史料室

東京都文京区本郷7-3-1

電話：03（5841）2077（直）

印刷所：株式会社 芳文社

Archives Section of the University of Tokyo

東京都新宿区新宿3-12-4